

特別講演会

2022年7月6日(水) 17:30~19:00

弘前大学健康未来イノベーションセンター

「染色体欠失重複からみた 精神疾患のメカニズム」



講師：廣井 昇 教授

(University of Texas
Health Science Center at San Antonio)

1985年に早稲田大学文学部心理学専修をご卒業後、カナダのマギール大学心理学科博士課程に留学され、1991年に「アンフェタミンの報酬性効果に関する研究」で行動神経科学のPh.Dを取得されました。その後1991年よりマサチューセッツ工科大学にて、中毒性薬物や向精神薬の脳内遺伝子制御に関する研究をアン・グレイビル博士とノーベル生理学・医学賞を受賞された、利根川進博士とともに手がけられました。この研究成果はCell とJournal of Comparative Neurologyに掲載されました。

また1994年にはエール大学医学部精神科に移籍され、翌年、同大学の上級研究員に昇進されました。そしてエリック・ネスラー博士の研究室にて脳内遺伝子の中毒性薬物の作用の研究に従事され、転写因子や細胞内分子のコカインの報酬性効果に関する研究をScience、Nature、Proceedings of the National Academy of the Sciencesに発表されてきました。また1995年以来、2000年にノーベル医学生理学賞を受賞されたロックフェラー大学のポール・グリーンガード博士との共同研究にも従事されてきました。

そして1998年、ニューヨークのアルバートアインシュタイン医科大学精神科兼神経科学科に助教授として移籍され、同年、分子心理生物研究室室長にご就任、2005年には同大学准教授に昇進され、2006年よりMaltz NARSAD Investigatorと和光の理化学研究所の客員研究員も兼任されております。2019年より、テキサス大学サンアントニオ健康科学センター精神科教授にご就任されました。

神経精神医学講座主催 特別講演会

参加申込フォーム：

<https://forms.office.com/r/HH68eWvkVi>



申込締切：7月6日（木）12：00

※参加可能人数の上限は40名です。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、感染拡大防止の観点から、上限の変更等が生じる場合もございますので、ご理解願います。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため、対面形式での開催にあたり、下記対策を実施いたします。

内容をご一読いただき、ご理解、ご協力、ご同意いただける方のみ参加申込をお願いいたします。

- 講義中はマスクの着用をお願いいたします。
- 当日体温が37.5度以上の方、体調の優れない方は受講をお控えいただきますようお願いいたします。
- 受付時に非接触型体温計での検温を実施いたします。37.5度以上の場合、受講をお断りいたします。
- 講義中に頻繁な咳・くしゃみ等、懸念される症状が見受けられる方は、ご退室いただく場合がございます。
- 講師に感染症罹患の疑い等がある場合には、セミナー当日であっても開催を中止することがございます。
- スタッフは必要に応じ、マスクやフェイスシールドを着用いたします。
- 受講の際は、受講者同士一定の間隔をあけてご着席いただきます。
- 換気等で暖房や冷房等、空調効果が著しく損なわれる場合があるため、各自寒暖対策を講じていただくようお願いいたします。